

from **NOW ON** KANSAI

ひとをみつける、ひととつながる
関西広域連合のビジネス情報紙

●プロフィール

松井太郎氏(写真右側)
とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点 戦略マネージャー
株式会社あきんど太郎 代表取締役店主
大阪府出身。ソフトバンク株式会社を経て、2016年から現職。19年に「とっとり副業・兼業プロジェクト ～鳥取県で週1副社長～」を立ち上げ、高度な専門性や豊富な経験を有する都市部のビジネス人材を、副業・兼業や移住就職などにより県内企業へ数多く誘致。また17年には鳥取銀行との共同出資で、鳥取県八頭町の「隼Lab.」に地方創生の総合商社「あきんど太郎」を設立。事業承継を活用して若手経営者を100人創出する「あきんど百人計画」を推進。

谷中修吾氏(写真左側)
INSPIRE 代表理事
BBT大学 経営学部グローバル経営学科 学科長・教授
ビジネスプロデューサー。静岡県出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。外資・戦略コンサルティングファーム Booz Allen Hamilton を経て、現職。国内最大級の地方創生イノベーションプラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアする取組を展開。内閣府、総務省、環境省、農林水産省、文部科学省にて、地方創生領域の有識者を務める。慶應義塾大学SFC研究所「地域デザイン・ラボ」総合プロデューサー、OECD(経済開発協力機構)農村イノベーション委員会のエキスパート委員などを歴任。

とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点
鳥取県鳥取市東品治町111-1(JR鳥取駅構内) 鳥取県立鳥取ハローワーク内
<https://tori-pro.jp/>

編集後記

今号では、地方企業の人材不足という課題に対して、全国的に見ても先進的な取組である鳥取県の「とっとり副業・兼業プロジェクト」の取組について取材しました。プロジェクトの推移から今後の展望まで、実際のエピソードを交えながら熱く語っていただきました。

働き方改革の一環として副業を解禁する企業が増える中、地方企業に外部人材を受け入れて新しい風を起こし、地域活性化につなげるというワクワクする取組。今後も目が離せません。
(広域産業振興局・吉富)



〈とっとり副業・兼業プロジェクト とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点〉
地方の中小企業が大都市圏の人材を獲得できるように、2015年から内閣府がスタートさせた「プロフェッショナル人材戦略事業」。鳥取県では地方版ハローワーク「鳥取県立ハローワーク」の無料職業紹介機能と、「プロフェッショナル人材戦略拠点」の人材スカウト機能を組み合わせた全国初のビジネス人材誘致プラットフォームを活用し、今までにない成果を上げて全国から注目を浴びている。

関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員登録中！

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp



発行元

関西広域連合 広域産業振興局

〒559-8555

大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内

TEL06-6614-0950 FAX06-6614-0951

E-mail sangyo@kouiki-kansai.jp

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ
関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS

グラフィックデザイン●秋山茂之

(株式会社アド・エモン)

取材ライティング●町田佳子

編集ディレクション●浅野由裕

「週1副社長」という働き方が、地方を変える。
～県内の中小企業を「攻めの経営」に転換し、成長を促す～



とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点
戦略マネージャー
松井 太郎氏

「週1副社長」という働き方が、地方を変える。 ～県内の中小企業を「攻めの経営」に転換し、成長を促す～

求人側と応募側、双方のニーズとマインドを 読み解き、構築されたプラットフォーム。

月3万円から5万円という報酬で副業・兼業人材を募る。その名も「鳥取県で週1副社長」。これは「日本一人口の少ない県」鳥取でおこなわれている試みだ。同県では地方版ハローワーク「鳥取県立ハローワーク」の無料職業紹介機能と、鳥取県と内閣府が協調して実施する「とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点」の人材スカウト機能を組み合わせた、全国初のビジネス人材誘致プラットフォームを構築。戦略的経営を目指す県内企業経営者と、都市部ビジネス人材を同プラットフォームでつなぎワンストップでサポートをおこなっている。その取り組みは、大きく3つ。まずはメインとなる「副業・兼業プロジェクト」。次に都市部大企業(人事部)との連携、そして3つめが移住就職によるビジネス人材の誘致。この公・民一体チームは緊密に連携し、県内企業の人材ニーズにえている。

「とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点」で、戦略マネージャーを務めるのが松井太郎さんだ。2016年の就任から当初は移住就職によるビジネス人材誘致を中心に進めたが、あるとき疑問が湧いたという。「経営課題の解決を望む企業は多いものの、都市部から来た人材をフルタイム雇用する余裕があるのか。同時にキャリアがあり、都市部に生活基盤を持つ人材がその環境を手差し



◀サブマネージャー
松井さんを筆頭に、角田祐輔さん(右上)、田中大一さん(左下)、井筒えり子さん(右下)たち3人のサブリーダーがこのプロジェクトを支えている

で地方移住するのは、現実的だろうか」と。それなら、副業や兼業の形をとったほうが現実的ではないかと考えたことが、この事業へと発展する。松井さんは地方企業に不足しているものとして「最新の業務ツール、成功や失敗体験、市場情報、競合他社の動向、技術、業務ノウハウ」をあげる。「企業側が求めているのは悩み相談というか、経営者と伴走してくれること。自分のアイデアに対して壁打ちが必要で、それをするには自分の本音を言える「しがらみのない人」がいい」。そのため経営課題はピンポイントで解決できるものにフォーカスした。また県内企業の経営者には、「優秀な人材にフルタイムでやってもらう仕事がない」「相応の報酬を払えるだけの資金がない」という課題もあった。だから応募する側も「報酬だけを希望する人ではなく、社会的なつながりを希望してくれる人に来てもらうのがいい」と発想を変えた。そこから「週1副社長」のポジションと月3万円～5万円という報酬を設定。参加する地元企業は、中小零細が多くこれなら対応できる。しかも期間は1カ月単位で自動更新もできれば、打ち切りも可能と柔軟な契約とした。

採用企業と副業者、 条件で選ぶ一方的なネットショッピングではなく、 選び合わないで成立しない「パートナーシップ」。

プロジェクトの推移を見ていこう。本格始動した2019年度、ビズリーチと連携し、同社の特設ページで県内企業への副業・兼業人材を2回にわたって募ったところ、予想を大きく上回る応募者が殺到した。この年は14社16求人に対して1363件の応募があり、うち23人の採用につながった。ゆうに倍率59倍という人気の高さ。以降、2020年度にはみらいワークス、2021年度にはパーソルキャリアと連携し、3年連続で求人・応募者数を拡大させながらプロジェクトを継続中。本年度は100社目標としており、2月末現在116社、200名がマッチングしている。

成功要因のひとつとして「デジタルマーケティングを駆使した集客、キャッチフレーズ、OGP、サムネイル、ページ遷移、求人内容などを細部にわたって工夫しました。これは3年間やってきたからこそ分かるもの」と松井さんは語る。また応募から選考、契約までの流れをわかりやすくまとめた副業・兼業ハンドブックも作成している。成長戦略や経営革新の実現のため、県内企業ではさまざまなポジションで副業・兼業人材を求めている。対して都市部のビジネス人材にとっては、これまで培ってきた経験を活かして、経営に携わるチャンスは多様に広がっている。県内企業で副業をする人材は、報酬よりは自己実現や地方貢献を目的

にすることが多いという。「都市部の大企業では当たり前ともいえる知識やノウハウが、県内企業にとっては目から鱗で喜ばれることも多い。報酬以外にそういう体験も一緒に持ち帰ってもらえたら」

サブマネージャーの活躍と それをバックアップする自治体の支援体制。

このプロジェクトがここまでの推進力を持ったきっかけは、県立ハローワークと一体化したことが大きいという。この組織も全国的に見てユニークな存在だ。県内4カ所と東京と大阪に拠点を構え、一般求職者の支援を全県で展開しつつ、女性、ミドルシニア、若者の就業支援、IJUターン就職及び企業の人材確保支援、さらにはビジネス人材誘致まで広くおこなっている。「この一体化で風向きが変わった。まず県内企業からの信頼度が違います」。今までは事業のスキームから説明しないとできなかったが、県立ハローワークのプロ人材戦略拠点ですといえば、ひとことで説明がすむ。「鳥取県は行政との距離感がすごく近いんですよ。これは東京や大阪ではない感覚」

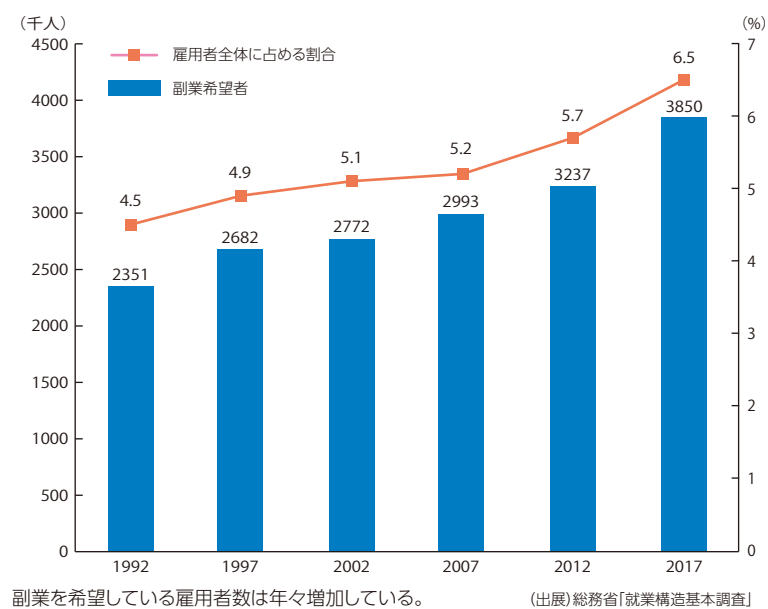
そして「サブマネージャーの存在」。2019年度からは独自の判断でサブマネージャーを採用できるようになった。「何をするかより誰とするか」が大切と、いろんな人と会うなかでピンポイントに声がけしたという。ペルソナは「県内出身者、Uターン人材、都市部(東京or大阪)への進学、勤務経験を持つなど、都会と鳥取のことが俯瞰で見られる人。そして地方創生や社会貢献に興味あり、30歳前後、未経験者、男女不問」当初は松井さんひとりでやっていた企業訪問も、2019年度以降はサブマネージャーがメインとなっていく。「本年度だけで彼らは600社以上の企業を訪問している。4～12月で電話をかけた企業は約1100社。県内企業は約2.5万社ですが、名前を耳にする会社にはほぼコンタクトは取っています」。彼らは単に副業人材活用ありきで動くのではない。相手の話したいことに対して深く丁寧に耳を傾け、内容の真意をはっきりとさせながら、共感的理解を示す。そんなコミュニケーションを心がけているという。「会社の成長のために必要だけど、緊急ではないため日々の業務に追われて取り組めていない経営課題は多い。そんな課題についてサブマネージャーが丁寧に相談にのり、解決にはどんな人が必要かなどを明確化する。この相談は実質的にコンサルの一部になっていて、非常に重要です」

外部人材を受け入れる企業文化を醸成すること、 それこそが地域活性化へつながる。

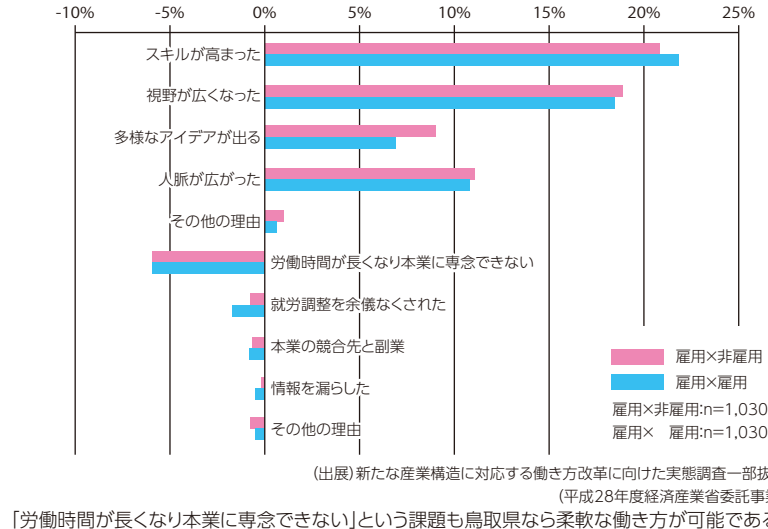
ここで成功事例を紹介。えびす本郷は、菓子や食品などの卸売を中心に事業展開する企業。これらにくわえ山陰の産品をECサイトで販売していたが、長らく赤字が続いていた。デジタルマーケティングにおける技術力の不足が、通販部門を運営するうえで抱える課題だった。そんなとき届いたのが、とっとりプロフェッショナル人材戦略拠点からの副業人材活用の案内。金額も格安で、副業という概念が身近になったため最初は懸念したが、参画してみたところ10人を超える応募があり、2019年12月から東京在住のWebディレクターを副業人材として受け入れた。月2回のオンラインミーティングでは、ホームページのレイアウトから、社内では判断できない配色まで的確に意見をもらった。そうしてECサイトの改良を続け、売上は大幅に向上したという。現在こうした事例がどんどん増えている。

「副業人材を活用した攻めの経営で業績アップして雇用が拡大し、地域活性化による産業振興につなげていきたい」と松井さん。さらに個人の考えだと前置きしたうえで、副業だけで終わらない鳥取県内企業と都市部ビジネス人材の新しい関係についても語った。「求人募集はいわゆるフロー。終わったら流れていく。これをストックへと事業展開させたい。鳥取県に副業兼業でかかわった都市部ビジネス人材と県内企業、それぞれを継続的につなぐようなプラットフォームがあればいいなと思っていて。副業者同士あるいは、県内企業同士の情報交換ができれば。たとえばAさんがB社で副業していたが、今度CさんがB社で副業したいときに事前に情報交換できたらいいし、別のパターンで企業同士こういうことがあってもいい」。最後にこの事業で大切にしていることをたずねた。「一番の目的は外部人材を受け入れる企業文化を醸成すること。地元企業が元気になるためには、外部人材を受け入れて新たな刺激を得て、経営者の意識が変わっていくことが大切です。それが企業の発展につながりますから」

副業を希望してる雇用者数の変化



本業への影響に関する認識(ひとつだけ)



◀えびす本郷・松葉がに通販Webディレクターを副業人材として受け入れた、えびす本郷 通販部によるECサイト「いずも庵」。サイトの見直しと改良を続けた結果、売上が大幅に上昇した
<https://izumoan.com>



▲プロジェクト募集バナー
「とっとり副業・兼業プロジェクト」は、年4回に分けて副業・兼業求人を掲載。求人募集については掲載料無料、マッチングが成立した場合も成果報酬等の費用は一切発生しない。